

被害拡大中！

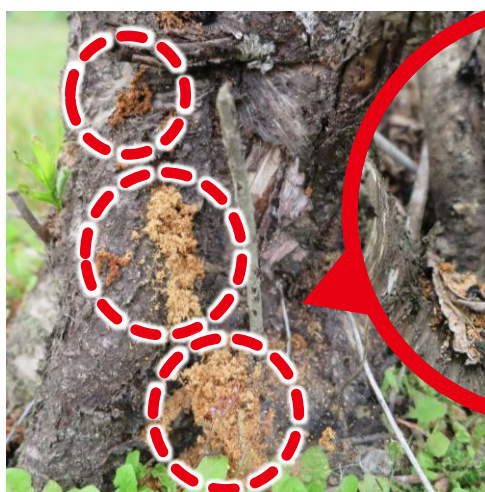
クビアカツヤカミキリに警戒せよ！

クビアカツヤカミキリは現在、全国各地で発生が確認され、被害の拡大が続いている特定外来生物です。

さくらやうめ、ももなどの樹木に深刻な被害をもたらします。幼虫が樹木内部を食害し、樹勢の低下や枯死を引き起こします。

発見の遅れは重大な被害につながります。フラス(木くず状の排出物)など初期サインを見逃さず、早期の防除を実施しましょう。

クビアカツヤカミキリ 被害のサイン



◀ 幼虫は生木の内部を摂食し、フラス(木くずや糞)を排出します。このフラスを見つけたら、幼虫被害のサイン！



▲ 樹の中にある老齢幼虫



◀ クビアカツヤカミキリの被害の
見つけ方や、その特徴、生活環などを
詳しく解説した動画です。
ぜひご覧ください。

その木くず、見逃さないで！
クビアカツヤカミキリのサイン！



NICHINO

日本農薬株式会社

クビアカ対策は「早期の予防」がカギ

クビアカツヤカミキリの被害は、発見後の対応だけでは拡大を防ぎきれません。効率的な被害抑制には、事前の防除と複数対策の組み合わせが重要です。各防除方法の特徴を理解し、効率的に対策を行いましょう。

1 掘り取り

コスト ★☆☆
作業負担 ★★★



ピアノ線や針金の先をかき針状に曲げた器具を自作、または市販の千枚通しなどを用いて、フラスの出ている穴に差し込み幼虫を取り出す方法です。幼虫は樹皮に沿って食害することが多く、除去できれば確実な防除が可能です。準備に大きな費用はかかりませんが、手作業となるため被害樹が多い場合には労力と時間を要します。

2 防虫ネット

コスト ★☆☆
作業負担 ★★★



成虫の樹木外への飛散防止と、新たな成虫の産卵防止を目的とした手段です。防風網は、幹回りの約2倍程度の長さを使用し、弛ませながらスカート状に巻き付けて設置します。ただし、巻いていない高い位置での被害や側根からの侵入は防ぐことができません。また、設置には手間がかかり、慣れていない場合は1樹あたりの作業時間も長くなります。

3 薬剤防除

コスト ★☆☆
作業負担 ★☆☆

成虫発生前の事前防除が効果的！



高濃度樹幹散布は幹の割れ間や隙間、側根にもまんべんなく、樹幹がビシビシになるくらい、しっかりと散布しましょう！

登録薬剤の特性に応じて、薬剤散布により被害を効果的に抑制することができます。おすすめの「アクセルフロアブル」は、成虫の体への直接付着だけでなく、経口摂取されることで効果を発揮します。処理後も有効成分が一定期間樹皮上に留まるため、樹内の幼虫が外樹皮上の有効成分を取り込み、異常や死亡を引き起こして、被害抑制に繋がります。作業性とコストのバランスにも優れ、取り入れやすい防除手段です。

■おすすめ薬剤「アクセルフロアブル」の適用病害虫および使用方法
(適用病害虫名「クビアカツヤカミキリ」のみ抜粋)

農林水産省登録 第22461号

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数
もも類	クビアカツヤカミキリ	1000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (樹幹散布は2回以内、 散布は2回以内)
		100～200倍	5～200ℓ/10a			樹幹散布	
すもも	クビアカツヤカミキリ	1000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	4回以内 (樹幹散布は2回以内、 散布は2回以内)
		100～200倍	5～200ℓ/10a			樹幹散布	
うめ	クビアカツヤカミキリ	1000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
さくら	クビアカツヤカミキリ	1000倍	200～700ℓ/10a	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内	散布	6回以内
		200倍	5～200ℓ/10a			主幹から 株元に散布	
		100倍	-			木屑排出孔を 中心に薬液が 滴るまで樹幹注入	

2026年7月現在の登録内容（詳しくは製品ラベルをご確認ください）
その他、当社取扱剤でクビアカツヤカミキリに登録を持つ薬剤は「ハチハチフロアブル」「モスピラン顆粒水溶剤」「アグロシリク水和剤」「スミチオン乳剤」がございます。

アクセルの上手な使い方の詳細は日本農薬までお問い合わせください

※★が多いほどコスト・作業負担が大きいことを示します。また本評価は各防除手法の特徴や一般的な作業条件等をもとに当社で整理した目安です。